

### 3. 「移動・外出を多様な生活支援サービスで推進するセミナー」 骨子

#### ■セミナーin 大分■

開催日：2016年12月13日（火）、会場：ホルトホール大分、参加者70名

資料：[http://www.zenkoku-ido.net/\\_action/pdf/161213ooita\\_shiryu.pdf](http://www.zenkoku-ido.net/_action/pdf/161213ooita_shiryu.pdf)

#### 導入と解説

棕野氏（大分大学）が、3つの紹介事例が道路運送法上で見るとどの類型で、総合事業で見るとどの類型に該当するか等の解説をされました。

#### 紹介事例

##### ▼松戸市（千葉県）の訪問型サービスB

「訪問型元気応援サービス」として「生活支援コース（訪問Aに相当）」と「困りごとコース（訪問Bに相当）」があり、「困りごとコース」にはオプションで移動支援（付添支援）が盛り込まれています。中沢氏からは、利便性の向上、費用の効率化、高齢者の活躍の場づくりを一体的に進める様々な工夫や視点が示されました。

##### ▼さつま町（鹿児島県）の訪問型サービスD

中山間地で公共交通機関では通院や買い物に行けず、「通院等乗降介助」を利用するために要介護認定を申請する人も多い地域。町は、「事業対象者」もドア・ツー・ドアで通院・買い物等の外出を支援したいと「社会福祉法人クオラ」（訪問介護事業所）による介護タクシー（+4条ぶら下がり）に「事業所実施型」の訪問型サービスDの補助を決めました。町の判定会議で認められた人を1回30分510円（介護運賃）で、法人職員が送迎します。



##### ▼国東市（大分県）のサロン送迎

地域で支え合う体制づくりが必要という意識の共有から始めて、わずか一年で、住民発意・住民主体の居場所づくりや移動支援を実現しました。住民有志による「暮らしを考える会」が、マイカーボランティアによるサロン送迎と、そこからの買い物等移動支援（無料）を実施中。

#### 訪問型サービスDにかかる市町村意向調査・報告

石川氏（福祉デザイン研究所）が、全国720市町村から寄せられた回答を元に、訪問型サービスDの実施状況や課題意識についてアンケート調査結果の報告を行いました（4会場で実施）。



#### ディスカッション

主要な共通課題5項目について、パネラーのコメントを元に障壁の乗り越え方や考え方を示しました。



- ①ニーズの把握、②担い手となる人材の把握、発掘、育成、
- ③道路運送法上の登録不要の活動を実施するための具体的な条件や運輸支局や交通事業者等との調整
- ④補助の仕組みづくり、総合事業の活用の仕方、
- ⑤担い手のリスクマネジメント

## ■セミナーin 神奈川■

開催日：2016年12月22日（木）、会場：横浜市健康福祉総合センター、参加者150名

資料：[http://www.zenkoku-ido.net/\\_action/pdf/161222kanagawa\\_seminar\\_shiryo.pdf](http://www.zenkoku-ido.net/_action/pdf/161222kanagawa_seminar_shiryo.pdf)

### 導入と解説

河崎氏（全国移動ネット理事）が、「移動・外出支援の法的整理」と、3つの紹介事例についての道路運送法上の位置づけを解説しました。服部氏からは、訪問型サービスDの補助のしくみや考え方が示され、今後のサービス創出に欠かせない生活支援コーディネーターについても、どのような資質が求められるか、どのような役割があるかが示されました。

### 事例紹介とディスカッション

#### ▼松戸市（千葉県）の訪問型サービスB

- 中沢氏（松戸市役所）から、大分セミナーと同様に、介護人材の不足や健康寿命を延ばす方策を大局的に考えつつ、地域の関係者と会話してできることを見出し、創意工夫を重ねてきたことが紹介されました。



#### ▼秦野市（神奈川県）の訪問型サービスD

- 4つの住民ボランティアグループが運営する「生きがい型デイサービス」（1か所）があり、その送迎を福祉有償運送団体でもあるNPO法人と、特別養護老人ホームを運営する社会福祉法人が担っています。
- 久保田氏（秦野市役所）からは「生きがい型デイサービス（通所型サービスB）」が、訪問型サービスDによって利用者がV字回復したことや、現在ある「力」を発展させ、最小の経費で最大の効果を上げるというモットーでしくみづくりに取り組んでいる様子が披露されました。
- 福祉有償運送団体でもある「NPO法人野の花ネットワーク」の澁谷事務局長は、訪問型サービスDを含め、外出支援にこだわってきた理由や外出がもたらす効果を発表されました。



#### ▼金井原苑と運転ボランティアグループ（川崎市）の協働によるサロン送迎

- 小地域ネットワークをテーマとした川崎市麻生区の協働事業から「人とサロンをつなぐ移送推進協議会」が発足、その後「あさお運転ボランティアCAP」が生まれました。運転ボランティアが区内3か所のサロンへの送迎を行い、金井原苑が車両や拠点の提供、運転者研修等を担っています。
- 依田苑長からは、地域のボランティアと二人三脚で立ち上げた様子や、しくみのやりくり、地域の理解や協力に対して何か役に立ちたいという思いが披露されました。総合事業は活用していませんが、区内の他施設からも関心が高まっているそうです。
- 「CAP」の奥山氏からは、事故防止策（二人体制など）や、金井原苑へのお礼として施設入所者のおでかけ企画を行ったことなど、金井原苑との信頼関係の中で、活動が広がっていることが報告されました。



## ■セミナー in 大阪■

開催日：2017年1月20日（金）、会場：大阪市立総合生涯学習センター、参加者99名

資料：[http://www.zenkoku-ido.net/\\_action/pdf/170120seminar\\_oosaka\\_shiryo.pdf](http://www.zenkoku-ido.net/_action/pdf/170120seminar_oosaka_shiryo.pdf)

ご紹介した事例が、二つとも総合事業に基づく訪問型サービスDを実施している（または4月実施予定）事例だったため、事業のしくみや考え方について理解を深めるセミナーとなりました。

### 導入と解説

- 島津氏（桜美林大学）、遠藤氏（全国移動ネット理事）、中沢氏から、総合事業の枠組みとしくみづくりの考え方、道路運送法上の位置づけや課題、を解説していただきました。



### 事例紹介とディスカッション

#### ▼米原市（滋賀県）の訪問型サービスB+D

- 地域の助け合い活動である「地域お茶の間創造事業（介護予防事業）」の実施団体が、居場所づくりや生活支援サービスを行っており、そのうち3団体が訪問型サービスDを実施予定です。「大野木長寿村まちづくり会社」は、その一つであり、地域の拠点になり様々な生活支援を提供しながら、移動支援も実施してきた非営利の団体です。
- 訪問B（地域訪問型サービス）と訪問D（地域寄り添いサービス）の補助事業があり、BとDはセットで実施することとされています。補助金は、乗降介助の回数に応じて積算されます。道路運送法上は、「登録不要の活動」で、大野木長寿村まちづくり会社の場合、ガソリン代実費を収受し、運転者に渡しています。



#### ▼黒滝村（奈良県）の訪問型サービスD

- 人口 750 人のマイカーが利用できないと在宅生活が維持できない地域であり、担い手不足も顕著なことから、社会福祉協議会が「指定」事業者となり、その職員が村内各所への送迎及び付き添いを行います。
- 従事者は、障害者の移動支援事業も行っており、全員介護資格のある社協職員。「指定」のため1回あたりの単価があり、要支援1は1日30分以内で800円、要支援2は1日1時間以内で1500円という設定です。利用者負担はこのうちの1割ないし2割を支払います。
- 道路運送法上は、「登録不要の活動」で、「家事・身辺援助等のサービスとの一体型」となっています。公共交通空白地有償運送を検討した時期がありましたが、バス路線との関係で実施に至りませんでした。今後、村外に出るサービスを実施する際は、改めて有償運送の登録を検討するそうです。



大野木長寿村まちづくり会社も黒滝村社協も、蓄積してきた様々な活動でニーズを把握し、しくみづくりに力を注いできた団体です。ディスカッションでは、これらに対し、総合事業の場合には備えるべき要件があること、人件費を公費負担していれば道路運送法上の登録が必要とみなされる場合がある（運輸支局の判断にバラつきがあるため）ことなども示されました。

## ■セミナーin岡山■

開催日：2017年1月27日（金）、会場：岡山県ボランティア・NPO活動支援センター「ゆうあいセンター」大会議室、参加者56名

資料：[http://www.zenkoku-ido.net/\\_action/pdf/170127okayama\\_seminar\\_siryou.pdf](http://www.zenkoku-ido.net/_action/pdf/170127okayama_seminar_siryou.pdf)

### 導入と解説

- ・横山氏（全国移動ネット理事）から、道路運送法上の移動・外出支援の取り扱いや、岡山県内の活動の概況、課題について、また訪問D等は不安が多く取り組みが進んでいないが、総合事業が起爆剤となることを期待するという発言がありました。
- ・服部氏（一般財団 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構）からは、地域支援事業の制度趣旨、訪問型サービスDの補助の仕組み、どのように活用すればいいかが示されました。制度論だけでなく、サービス創出を目的にせず、地域のニーズを見つめてできることを探すといった考え方の提示もなされました。
- ・また、松戸市の中沢氏からは新総合事業の展開の仕方、倉敷市の吉田氏から生活支援コーディネーターの役割と居場所づくりについて茶話会から介護事業所が拠点となっている例まで多様な事例と地域資源の可能性をご紹介いただきました。



### 事例紹介とディスカッション

#### ▼美郷町（島根県）の訪問型サービスB+D

- ・高齢化率45%で、高齢者の半分は一人暮らしという町で、別府安心ネットに訪問型サービスBとDをセットで補助する見通しです。
- ・別府安心ネットは、自治会等ボランティア輸送事業という県の補助事業がきっかけで発足した団体です。同事業を活用して車両購入し、あわせて地域おこし協力隊の配置事業で人を確保しました。その期限後には、町の単独補助を受けて過疎地有償運送（現：公共交通空白地有償運送）を開始し、現在は、生活サポート事業（草刈りや農作業支援）、移動サポート（福祉有償運送、公共交通空白地有償運送）等を実施しています。
- ・松嶋氏（美郷町役場）は、生活支援コーディネーターを兼務し自治会連合会との調整、庁内や支局との連携にも尽力されています。町と実施主体の協働の関係が確立されているのが特徴です。



#### ▼ホッと灘崎ボランティアネット（岡山市）のサロン送迎

- ・地域通貨を活用した「サロン・なんだ村」では、様々な交流事業とサロン送迎を行っています。
- ・八田理事長（元は大工さん）からは、地域のお祭りの実行委員10人が広報づくりを始めてから10年、とにかく色々な人を巻き込んで、共生の場としてのサロンを作ってきた様子が語られました。福祉有償運送は、運行管理業務や採算面が課題となって廃止したものの、サロンには送迎が欠かせないそうです。（サロンからの買い物ツアーも月2回実施）。
  - ・行政や生活支援コーディネーターとの接点は一切ないけれど、今後は町内の各所にサロンの支部を作りたい（自治会とも連携して）というご発言もありました。
  - ・アドバイザーから、こうした地道な活動の活かし方についてコメントがあるなど、対照的な2つの事例を通して、地域資源の活かし方やしくみづくりの考え方を学びました。



